

第3回「船舶からの大気汚染物質放出規制海域（ECA）に関する技術検討委員会」
開催結果について

1. 開催日時・場所

日時：平成23年3月31日（木）10:00～12:00

場所：国土交通省中央合同庁舎2号館15階海事局会議室

2. 委員名簿：別紙参照

3. 議事概要：

(1) 船舶からの大気汚染物質の排出量データの整備について

事務局より、現況(2005年時点)の大気汚染物質の排出量データの整備について説明があり、議論の結果、以下の結論が得られた。

① 外航船及び内航船からの排出量データ

排出源となる船舶の位置を船舶航行実績データから求める方法(※1)とAIS(船舶自動識別装置)データから求める方法(※2)の二通りについて排出量を計算して検証した結果、本委員会では、それぞれの特性を踏まえ、沿岸ではAISデータを、沖合では船舶航行実績データを基に算出する方法を採用し、両者を組み合わせて排出量データを整備することとなった。

※1 船舶航行実績データによる算出：船舶の出入港の実績から船舶の移動経路を特定し、当該経路上からの排出量を算出。広い範囲に対応可能。

※2 AIS(船舶自動識別装置)データによる算出：沿岸域(AIS受信エリア)での航行実態から排出量を算出。高い精度で船舶の位置情報等を把握することが可能だが、範囲が限定的。

② 漁船からの排出量データ

漁業形態(海面養殖業、沿岸漁業、沖合漁業、遠洋漁業)によって活動範囲や使用する船舶の大きさ・燃料油種が異なる実態を踏まえ、各県・海区で保有する漁船の総トン数・隻数を考慮して、漁業形態ごとに燃料消費量を地理的に割り振ることとなった。

(2) 大気汚染シミュレーションの検討状況及び今後の検討計画について

① 大気汚染シミュレーションの検討状況

我が国周辺における大気汚染シミュレーションを暫定的に試行した結果をもとに、今後の作業における課題等に関して議論を行った。主な意見は以下のとおり。

- ・大気汚染シミュレーション結果の検証では、環境省による実測値と連携を図ることが有用
- ・我が国の大気汚染における船舶の寄与度、ECA設定の有無による違いを分かりやすく示すべき

② 経済的な影響について

ECA設定に伴う経済影響に関し、燃料油供給サイドへの経済的影響等についても十分に分析を行うべきであることから、今後、関係機関の協力を得ながら作業を進めることとなった。

③ 今後の検討計画

事務局より、作業の進捗を踏まえ、必要に応じて平成24年度も検討を継続する旨説明があった。

以上

船舶からの大気汚染物質放出規制海域（ECA）に関する技術検討委員会
（ECA 技術委員会） 委員名簿（敬称略、順不同）

委員長	若松 伸司	愛媛大学 農学部 生物環境保全学 大気環境科学研究室 教授
委員	速水 洋	（財）電力中央研究所 環境科学研究所 大気・海洋環境領域 上席研究員
	佐藤 徹	東京大学大学院 新領域創成科学研究科 海洋技術環境学専攻 教授
	岡田 啓	東京都市大学 環境情報学部 環境情報学科 講師
	前田 和幸	水産大学校 海洋機械工学科 教授
	千田 哲也	（独）海上技術安全研究所 海洋環境評価系長 兼 研究統括主幹
	田中 康夫	（社）日本船主協会 工務幹事会 幹事長
	内藤 吉起	日本内航海運組合総連合会 理事
	山口 祐二	（社）日本造船工業会 技術部 部長
	田中 春夫	（社）日本船用工業会 大形機関技術委員会 委員長
	木上 正士	（社）大日本水産会 漁政部 次長
	金子 タカシ	石油連盟 技術委員会 民生・産業用燃料専門委員会 委員
関係官庁	山本 昌宏	環境省 水・大気環境局 自動車環境対策課長
	武井 篤	水産庁 増殖推進部 研究指導課長
	米田 浩	国土交通省 総合政策局 海洋政策課長
	久保田 秀夫	国土交通省 海事局 安全基準課長